

事業所名	希望の丘鹿島（児童発達支援）		支援プログラム	作成日	2026年	4月	20日
法人（事業所）理念	子どもたちは遊びを通してたくさんの方の事を学んでいきます。子どもたちの力を信じて時には見守り、時には仲立ちをし、一人ひとりの気持ちや発達に寄り添う支援を大切にしています。感性を育てることに力を入れ、子どもだけでなく職員も心が動く経験をたくさん持つように意識しています。子どもも保護者も職員も『共に育つ』が法人の理念です。						
支援方針	小集団を活かし、職員やお友達との実際の関わりを通して、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルの向上を目指します。職員が設定する活動もありますが、子どもたちが主体的に遊びを選び、挑戦できる環境を大切にしています。苦手なことの底上げより、一人ひとりの得意を見つけ、伸ばして自信を育てる支援をしています。						
営業時間	平日 土曜日	9時 8時	00分 00分	15時 14時	00分 00分	分まで 分まで	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 来所時に健康チェック（体温測定や視診、保護者からの聞き取り）を行います。自分でも体調の変化に気付けるように、その時の体調を代弁して本人へ伝え返すこともしていきます。 絵本に出てくる登場人物の動きを真似しながら体操や全身運動を楽しむ中で、見て動く経験を通して体の使い方を知り、身体に対するイメージを育てます。 自分でできることを増やす為に、生活環境を構造化し自分の持ち物の管理など身辺自立の獲得につなげます。また、その日の利用児の顔写真を貼ることで、お友達を知る環境を作ります。 自立課題を中心に、自分でいろいろな事に取り組む意欲、自分でやり遂げる力をつけます。毎日のシールカードでは、日付や数字への興味・理解につなげます。 					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> “さくら・さくらんぼ”のリズム遊びを通して全身の筋肉に働きかけ、脳の発達を促します。 サーキット遊びやリズム遊びを取り入れ、体幹を使った様々な動きを楽しみます。バランスが上手に取れない子もいるため、必要に応じてマットなどを下に敷き安全に留意します。 音への敏感さがある子や大勢の人と一緒にいることが苦手な子に対しては、静かな部屋を用意することで安心して過ごせるよう配慮します。（カームダウンスペース） 自然物や様々な素材に触れながら五感を使い、自分から遊びや製作などに取り組んでみようとする気持ちを育てます。 					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 廃材や自然物を使って自由に制作できる環境を設定し、物の大きさや硬さ、色など様々なものに触れられる機会を作ります。 『やってみよう』『やってみたいな』という、子どもたちから自然と出てくるひらめきや言葉を大切に、その思いに対して挑戦できる環境を意識しています。また一人ひとりの思いが違う為、職員が仲立ちし伝え合ったり見せ合ったりすることで、新しい発見をしたりその物の可能性を更に広げられるように支援します。 遊びや活動の区切りをつける際、時計で終わりを伝えたり次の活動に見通しが持てるようにすることで、次に何をしたらいいのか自分で考え行動できるようにします。 					
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 絵本や歌の時間を大切にします。簡単な絵本から正しい日本語の使い方（助詞や形容詞など）を学んだり、歌と一緒に歌いながら季節を感じる言葉や日常ではあまり使わない言葉に出会ったりすることで、自然と言葉の獲得につながるようにします。 ままごとなどの『ごっこ遊び』を通してお友達とのやり取りを楽しみます。いろいろな素材を使って見立てたり、足りないものは一緒に手作りしたりする中で、イメージの共有やコミュニケーションが生まれるような環境を設定します。 					
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 並行遊びから連合遊びへ自然と広がっていくように、ままごとや絵本読みのコーナーを環境の中に設定し、職員が必要に応じて間に入ることで、子ども達同士の関わりに繋がるようにします。 廃材コーナーを充実させることで、お友達と素材やイメージを共有しながらやり取りを楽しんだり協力して作品を作ったりする中で人間性や社会性の発達を支援します。 一人ひとりが自分を素直に表現する中で相手との関わりを深めます。そのためにも、集団を意識できるようにルールのある遊びを支援の中に取り入れ、相手の思いや自分の気持ち（情動の調整）が理解できるようにします。 					
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 利用児に関わらず、きょうだい児に対しての相談も随時行います。送迎の際や日時を設けての相談など、保護者のご希望に沿って対応いたします。 土曜日に不定期でイベント開所を行います。利用児だけでなくご家族で参加していただくことで、家族でふれあいながら楽しい時間を過ごしていただきます。（同時に保護者交流会も行います） 			移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 関係してる機関との会議を利用児ごとに行います。会議では、それぞれの施設の様子を共有したり、一人ひとりに合った目標や支援を検討していきます。施設ごとの特徴はありながらも過ごす場所によって支援の方法が変わらないように、方向性を統一を図ります。 園とつながっていない利用児が入園できるよう調整を行い、入園先の園へ情報提供や相談援助を行います。 		
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 法人の関連施設である鹿島こども園との交流を通して、大きな集団で過ごす経験や他施設の子もたちと交流を持つ機会を作っています。 近くにある公園へ散歩に行く際には、自分達の過ごす地域を知るとともに、地域の方と挨拶を交わすことで地域交流の機会を持っています。 利用児に関わる全ての関係機関と必要に応じて情報共有を行います。 			職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 職員が受けたと思う研修の資料提供をし、積極的に研修に参加できる機会を作っています。また、事業所運営に必要な研修も、外部研修や施設内研修によって受けられるようにしています。 法人の関連施設（児童発達支援、放課後等デイサービス、こども園）に研修に行きます。関連施設からの研修も積極的に受け入れ、体験や話し合いを通して相互的に職員の資質向上を目指します。 		
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> 年に数回行う避難訓練では、職員の動きを確認するとともに、子どもたちも震災の意識が持てるようにその都度話をします。 散歩 季節の行事を伝えるために、製作を通して遊びを楽しみます。 						